

実践事例

1 実践の概要

(1) 取組みのねらい

- ・いじめによる悲しい出来事など、切実な話を通して、人間として「いじめは絶対に許されない」との認識を深くもたせる。
- ・いじめ防止に向けて、児童の実態や本校の取組みについて、全職員で共通理解を深め、情報交換を図りながら実践を推進する。
- ・保護者には、学校だよりやリーフレットなどを通して、家庭の役割や意義などを理解させる。

(2) 取組みの内容

- ・「いじめ防止に向けて」の学校の取組みと家庭（保護者）の役割を学校だよりでお知らせする。
- ・いやな思いをさせる「ちくちく言葉」と、人を優しい気持ちや元気にさせる「あたたか言葉」などについて、校長が全校児童に話をする。

教育委員会発行の保護者用「いじめ」リーフレットを家庭に配布し、家庭の役割と意義を理解させるとともに、学校だよりにて「いじめを早期に発見するポイント（家庭用）」をお知らせして、いじめ防止対策を推進する。

2 実践の成果（態度・心情面やいじめの解決など）

- ・講演会や授業などを通して、実際の話を知ったり、いじめている場面の絵を見たりすることで、客観的に自分を見つめることができるようになり、ふだんの何気ないその行為のひどさに気づき、友達への言動などに留意することができるようになってきた。

3 取組みの評価（対応についての評価）

- ・児童用「いじめ」リーフレットを活用した授業の実践報告とその成果により、児童の心情の変容等の評価する。

4 実践に関する資料（学習カード等）

- ・別紙資料

「娘のメッセージを伝えたい」

ジェントル・ハート・プロジェクト 実施計画

1. ねらい
 - ・人間として、してはいけないこと、守らなければいけないことを知ることを通して、相互尊重の心を培う。
 - ・子どもたちの『やさしい心』（ジェントルハート）をさらに育むための取り組みとして、公民館との事業をタイアップさせた講演会を開催し、いじめの未然防止に向けての取り組みを進める。
2. 主 題 「こころとからだへの暴力」
3. 対 象
 - ・3年生以上の子どもたち全員が、授業として参加し『命』について考える。
 - ・1, 2年生の担任も参加できるように、低学年はG4日程とする。
 - ・希望する保護者も参加できるように学校でもお知らせしていく。
4. 日 時
 - 13:00~14:30 ※体育館入場12:50~12:55
 - ・ビデオ(15分)
 - ・講 話(60分)
 - ・感想文(20分)
 - ※時数は2時間扱い(学級活動1、道徳1)
5. 場 所

6. 講 師 小森美登里(こもり みどり)さん
 - ・NPO法人「ジェントルハートプロジェクト」理事
 - ・およそ7年前、いじめにより一人娘さんを失う
7. 準備物
 - ・児 童…児童用椅子持参、筆記用具、下敷きなど(感想文記入)
 - ・教職員…筆記用具、下敷きなど(アンケート記入)
 - ・保護者…パイプ椅子(7学年で、当日セッティング)
 - ・VHSビデオデッキ、プロジェクター、スクリーン、CDラジカセ
8. その他
 - ・寒さが予想されるので、暖かい服装で参加させる。
 - ・ブルーヒーター等を午前中から準備する。